

第7章 市民とのコミュニケーションと未来への展望



▲マンホールサミット in 岡崎 (乙川河川緑地)

第1節

親水整備事業

1 アメニティ下水道モデル事業

(1) 事業の目的

アメニティ下水道モデル事業は、下水処理水を有効利用することにより、市民生活をより快適で潤いのあるものにするを目的として、建設省が昭和60(1985)年度に創設した事業である。

本市では、平成元(1989)年度に全国で10か所目の事業採択を受け、岡崎市のアメニティ下水道モデル事業として同年度から平成18(2006)年度まで3期に分けて事業を実施した。事業名は、1期(平成元(1989)年度)を「アメニティ下水道モデル事業」、2期(平成7(1995)年度)を「水循環・再

生下水道モデル事業」、3期(平成11(1999)年度)を新世代下水道支援事業制度「水環境創造事業(水循環再生型)」とした。

本事業の目的は、八帖処理場の処理水を再利用し、せせらぎなど新たな水辺環境を創出して市民に憩いと安らぎの場を提供することと併せ、本市下水道のPRを行うものである。その背景には汚水事業の遅延があり、当時は汚水事業に先立ち実施した雨水排水対策(都市下水路)として開渠で整備した早川一号幹線が、都市化の進展とともに雑排水の流入により水質汚濁が顕著に進行していたため、次善策としての覆盖・暗渠化計画があった。

(2) 事業の概要

本事業は、八帖処理場の処理水 25,000^m³/dのうち 1,300^m³/dをオゾン処理によって滅菌脱色し、日名放流幹線から早川一号幹線の上部に蓋をした全長1,100mの下水道散策路「はやかわ」へと導水し、処理水によるせせらぎ、散策路、あずまや、水飲み場等をはじめとする修景施設や街路灯等を設置するも

のである。また、散策路には下水汚泥ブロック等下水道資源を有効活用した。

本事業は、平成6（1994）年度の第3回建設大臣賞「いきいき下水道賞 一地域環境創設部門一」を受賞し、12（2000）年度には、「下水道散策路はやかわと岡崎城」が建設大臣賞「甦る水100選」を受賞した。

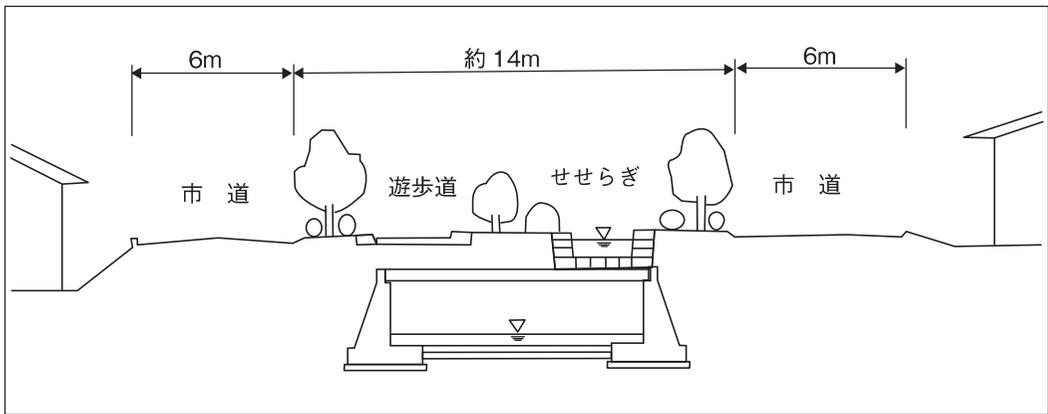


図7-1 横断面図

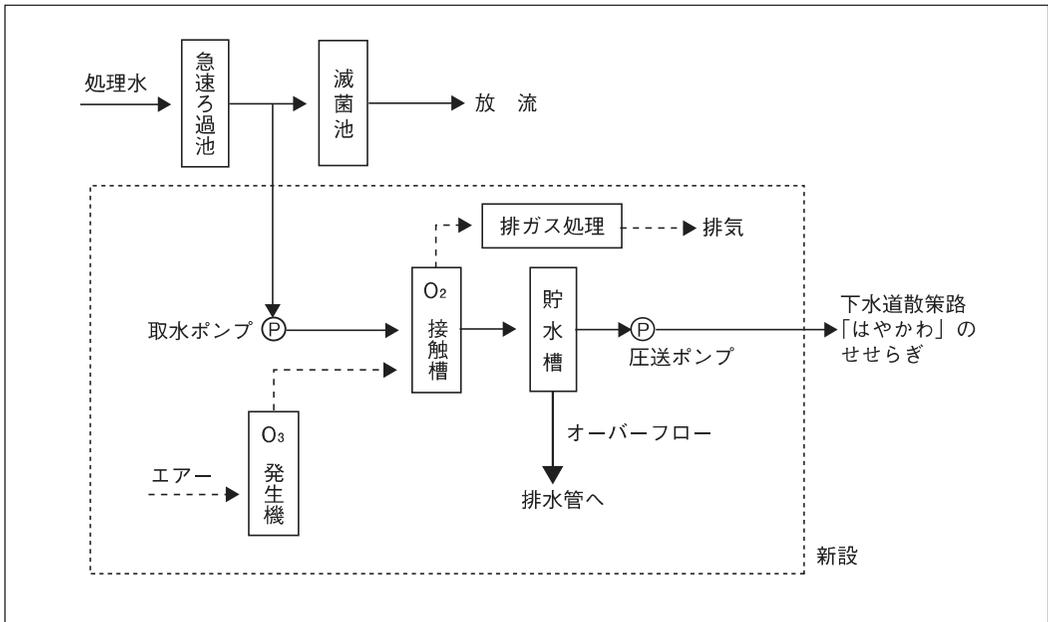


図7-2 オゾン処理フロー

(3) 事業計画

表7-1 事業計画

種別	整備箇所	整備区間 (m)	建設期間	事業費 (千円)
全体計画	日名南町～日名中町	1,100		約1,100,000
第1期事業	日名南町(早川二号橋～城北橋)	170	平成元(1989)年～3(1991)年度	439,000
第2期事業	日名南町(城北橋～堤橋)	180	平成7(1995)年～10(1998)年度	172,200
第3期事業	日名南町(堤橋～松原橋)	210	平成17(2005)年～18(2006)年度	151,180
計(1～3期)	日名南町(早川二号橋～松原橋)	560		762,380

全体計画の整備区間 1,100m は事業認可されており、進捗は 1～3 期事業合計で 560m である。全区間整備を目指したが、財源の確保が課題となった。流域下水道の供用開始に伴い、岡崎市の下水道事業は本格的に汚水整備を優先してい

くこととなった。事業の費用対効果や八帖処理場の廃止を受け、平成 21 (2009) 年に当該事業は役割を終えた。下水道散策路「はやかわ」は、平成 29 (2017) 年に市公園緑地課へ「はやかわ緑道」として移管された。

(4) 再生水質

表7-2 再生水質

水質項目		水質基準(修景用水)	八帖処理場の処理水	備考
基準水質	大腸菌群数(個/ml)	検出されないこと	ND(不検出)	昭和56(1981)年7月 建設省 再生水の用途別 水質基準
	残留塩素(mg/l)	—	—	
目標水質	外観	不快でないこと	不快でない	
	濁度(度)	10以下	10以下	
	BOD(mg/l)	10以下	約8	
	臭気	不快でないこと	不快でない	
	PH	5.8～8.6	約7.2	



▲早川一号幹線(改修前)

J7-001



▲早川一号幹線(改修後)

J7-002



▲早川一号幹線(覆蓋完了)

J7-003



▲完成したせせらぎと散策路

J7-004

2 アクアパークモデル事業

(1) 事業の目的

アクアパークモデル事業は、下水道と公園等を一体的に整備することにより、水と緑の潤いのあるオープンスペースの確保を目的として、建設省が平成2(1990)年度から9(1997)年度まで推進した事業である。

事業のきっかけは、岡崎公園の(岡崎城)大手門整備において、新設する大手門横の堀に流す水の水源が確保できなかったことが挙げられる。当初予定していた乙川の水が、水利権問題が支障となって利用できないこととなり、市公園緑地課の要請に応じる形で公園整備事業と同調して整備するため、平成2(1990)年に大手門、堀、せせらぎなど

の整備事業の採択を受けた。

事業は平成3(1991)年度までの2か年で整備を進め、国道1号拡幅整備モデル事業(建設省直轄事業)の完成に合わせて4(1992)年4月に供用を開始した。

(2) 事業の概要

本事業は、下水道散策路「はやかわ」へ導水した水を、日名放流幹線から岡崎公園の堀とせせらぎへと導水し、放流するものである。

なお、岡崎公園の堀とせせらぎは、昭和63(1988)年度～平成元(1989)年度の2か年にわたる岡崎城址公園整備事業において、大手門や石垣、築地堀、散歩歩道等を整備する岡崎公園大手門整備工事に併せて新設されたものである。

(3) 事業計画

表7-3 事業計画

種別	事業内容	事業費 (千円)
平成2(1990)年度	内径150mm圧送管 全長50m (国庫補助事業)(補助率1/2)	2,600
平成3(1991)年度	内径150mm圧送管 全長1,250m 内径100mm水中ポンプ:2台(国庫補助事業)(補助率1/2)	63,400
計	内径150mm圧送管 全長1,300m 内径100mm水中ポンプ:2台	66,000

表7-4 堀の概要

種別	事業内容
構造	堀:花崗石積 せせらぎ:五郎太石 全長:135m 幅:約3~5m
水量	下水処理水:1,300m ³ /d(24時間放流)
水質	BOD:約8mg/ℓ SS:約1mg/ℓ 大腸菌群数:ND 濁度:10以下



▲岡崎公園の大手門と築地堀、堀

J7-005



▲岡崎公園の築地堀とせせらぎ

J7-006

供用開始により、八帖処理場の処理水は岡崎城大手門脇の堀復活の一助となった。その後、流域下水道への接続で汚水整備の優先度が高まり、平成 21

(2009) 年八帖処理場も廃止することとなったため、大手門脇の堀のせせらぎへの下水処理水供給は役目を終えた。

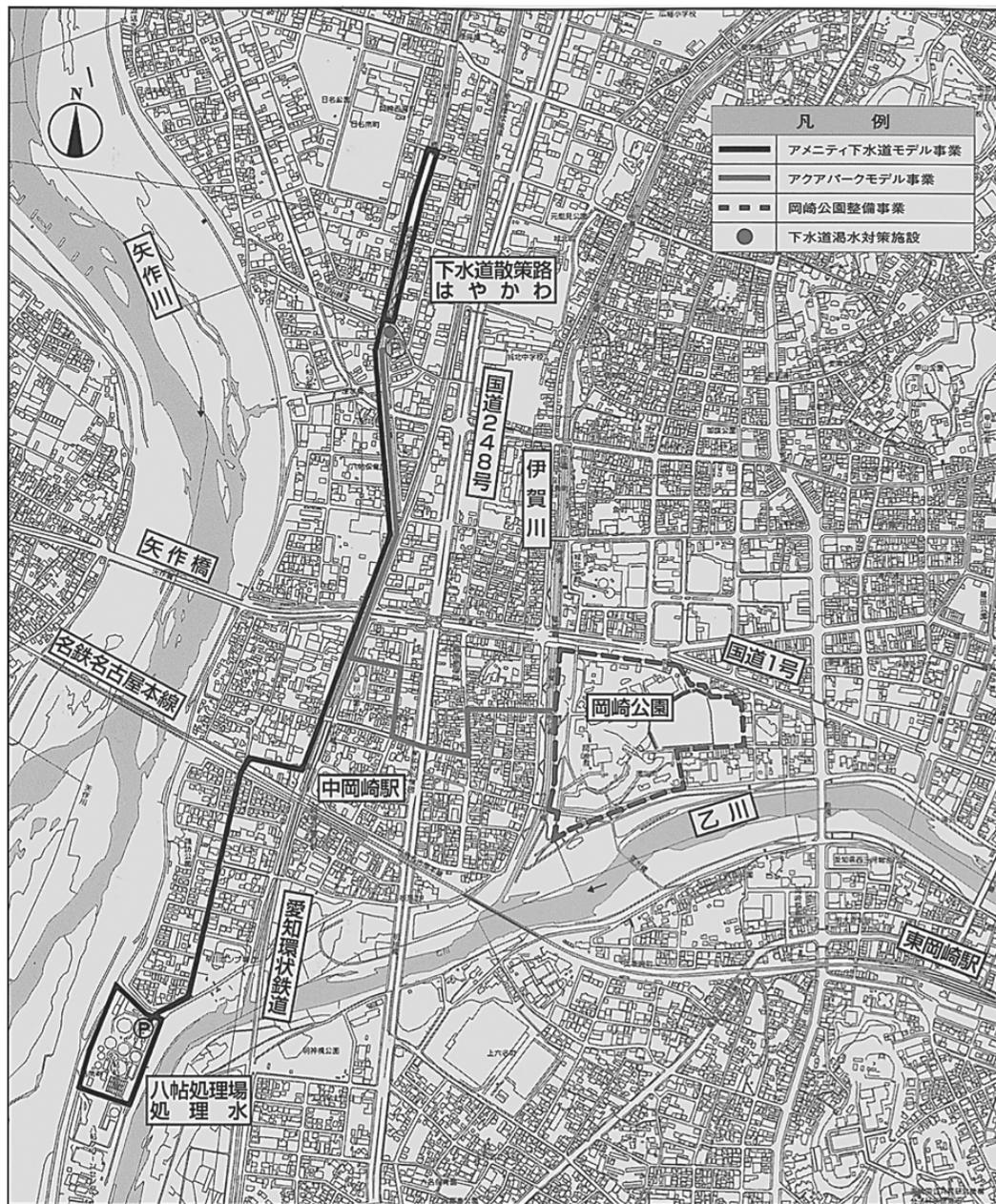


図7-3 下水道モデル事業概要図

コラム

「いきいき下水道賞」と「甦る水100選」の受賞

下水道の効果や必要性を広く国民へPRするため、建設省では平成4(1992)年度から「建設大臣賞(いきいき下水道賞)」の表彰を始めた。本市は第3回平成6(1994)年度に下水道散策路「はやかわ」が地域環境創設部門を受賞し、同年9月8日に行われた全国下水道促進デー中央式典に出席した。

なお、当該表彰は平成20(2008)年度に「国土交通大臣賞(循環のみち下水道賞)」へ名称を改め、現在も国土交通省が毎年度事例を募集している。

また、平成12(2000)年は明治33(1900)年3月7日に旧下水道法が施行されて100年目の節目であったことから、建設省は下水道が水環境の保全回復に果たしている事例を募集した。本市の「下水道散策路『はやかわ』と岡崎城」は、八帖処理場の処理水を水辺空間づくりに生かし、公園と下水道が一体となってまちに潤いとやすらぎを提供することで市民の親水性を高めたとして、甦る水100選を受賞した。



1 上下水道親子サポーター制度

若年層の上下水道事業に対するイメージアップを図るため、上下水道事業における市民参加型市政の一環として、「岡崎市上下水道親子サポーター制度」(おかざきすいと隊)の取組を令和4(2022)年度に開始した。サポーターは、市内の小中学生とその保護者を対象とし、主に以下を実施目的として募集した。

- ・上下水道をはじめ、SDGs、カーボンニュートラル等環境課題について学んでいただき、普段の生活を見直すきっかけにさせていただく。
- ・子供とともに保護者の方にも知識を深めていただくことで、未来の上下水道を見据えた本市の上下水道事業の在り方を考えていただく。
- ・上下水道事業に関して知識を深めた方から事業運営に関する御意見をいただく。

サポーター登録者は、水質検査キットを使用し自宅の水道水等の水質検査体験ができるほか、希望者はダムや浄水場の見学や、水に関連した自由研究の支援が受けられる。また、年数回メルマガ「すいと通信」が配信され、本市ウェブサイトから上下水道について学べる「すいとレポート」がダウンロードできる。

任期は4月1日から翌年3月31日までの1年間で、インターネットが利用できる環境でメールアドレスを保有していることなどを条件に先着100組の親子を登録した。



▲矢作ダム見学会

J7-007



▲矢作川浄化センター見学会

J7-008



▲自由研究サポート

J7-009

2 デザインマンホール蓋

(1) 下水道事業を PR

下水道管路は地下に埋設されていることから、人々の目に触れる機会が少なく、社会インフラとしての重要性を認識してもらうことが難しい。とりわけ本市内には下水処理場がなく、市民はマンホールの蓋によって下水道を認識するにとどまり、その存在、効果を体感しにくい状況にある。

(2) デザインマンホール蓋の導入

昭和 62 (1987) 年、本市は市制 70 周年記念事業の一環で「岡崎城と五万石舟」と「岡崎城に桜と花火」の絵柄をデザインしたマンホール蓋を導入した。更に平成 6 (1994) 年には、下水道管総延長 500km 達成記念として吹矢汚水中継ポンプ場にデザインマンホール蓋のモニュメント (記念碑) を設置し、下水道施設の利便性や重要性のアピールに努めた。



▲岡崎城と五万石舟の絵柄をデザインしたマンホール蓋 [J7-010]



▲下水道管総延長500km達成記念のモニュメント (記念碑) [J7-011]

(3) ルネふた

本市は、令和元 (2019) 年に市観光推進課と協力し、岡崎市美術博物館で開催された本市出身のマルチクリエイター・内藤ルネ氏の企画展「Roots of Kawaii 内藤ルネ展 - 夢見ること、それが私の人生 -」(令和元 (2019) 年 11 月 23 日～2 (2020) 年 1 月 13 日) に合わせて、内藤氏のイラストをモチーフにしたデザインマンホール蓋「ルネふた」を製作した。内藤氏は、イラストレーター、人形作家、デザイナー、エッセイスト等として幅広い分野で活躍し、「カワイイ」文化の原型を作ったことで知られる。

ルネふたは、昭和 34 (1959) 年に雑誌「ジュニアの日記」の表紙に掲載された「ルネガール」と日本初のパンダのキャラクター「ルネパンダ」に、代表的なモチーフであるサンフラワーがデザインされたもので、ピンク、緑、オレンジ色等の色違いで 7 枚が製作された。令和元 (2019) 年 11 月 24 日に岡崎市美術博物館をはじめ市内の駅周辺や図書館、道の駅、岡崎市観光協会内の籠田案内所等の観光要所 7 か所に設置し、下水道への認識を喚起することと併せて「ふためぐり」による話題づくりや観光振興の一助とした。

また、ルネふた設置キャンペーンによる観光振興策として、令和元 (2019) 年 11 月 14 日から 2 (2020) 年 2 月 29 日まで、市内 7 か所に設置されたルネふたと東岡崎駅前の徳川家康公像の計 8 枚の写真を SNS に投稿した人に「RUNE SEVEN マンホールシール」(限定 400 枚) を贈呈した。更に観光協会

籠田案内所や岡崎市美術館等で、ルネふたをデザインした缶バッジやリアルプレート、ストラップ、ボールペン等のグッズを販売した。こうした本市の取組は、新聞紙上でも大きく取り上げられた。



▲ルネふた

J7-012

大きな効果を及ぼし、平成 28 (2016) 年に岡崎観光伝道師に任命された。

このデザインマンホール蓋は、東海オンエアの動画企画から実現したもので、イラストレーターのみぞぐちともや氏デザインの各メンバーと公式キャラクターである「ピースの二乗のアイツ」が絵柄になっている。更に、蓋には AR (Augmented Reality / 拡張現実) 機能を搭載し、マンホールにスマートフォンをかざすと東海オンエアの画像が映し出され、記念撮影やメンバーと一緒に踏み絵ごっこが楽しめるしかけが施されている。



▲東海オンエアてつやのマンホール蓋

J7-014



▲東海愛知新聞 (令和元 (2019) 年12月11日)

J7-013

(4) 東海オンエアモチーフ

令和 3 (2021) 年 3 月には、本市を拠点に活動する人気ユーチューバーのグループ「東海オンエア」のメンバー等をモチーフにしたデザインマンホール蓋 7 種類を製作し、東岡崎駅や南公園、道の駅藤川宿等市内 7 か所に設置した。東海オンエアは、市内各所にある観光名所の動画を投稿して本市の観光振興に

3 マンホールカードの配布

マンホールカードとマンホールシール

本市は平成 28 (2016) 年に「岡崎城に桜と花火」のマンホールカード約 12,000 枚を制作し、岡崎公園 (三河武士のやかた家康館) で配布した。

また、ルネふたの設置を記念して、令和元 (2019) 年 12 月から観光協会籠田案内所や岡崎市美術館で「ルネふたマンホールカード」を配布した。マンホールカードは下水道広報プラットフォームと全国の自治体が共同制作するカードで、蒐集家も多い。

令和3（2021）年8月には東海オンエアの「オンエアバード」、翌年8月には東海オンエアのリーダー・てつやさんのカードを累計30,000枚以上配布した。本市では、これらのマンホールカードの配布によって下水道への関心を喚起するとともに、観光振興の一助とした。



▲ルネふたマンホールカード J7-015



▲ルネふたマンホールカード J7-016

4 100周年記念事業

本市下水道事業100周年を迎え、記念事業の一環として令和5（2023）年4月10日に「岡崎市下水道100年の歩み展」パネルキャラバン出発式を実施した。パネルキャラバンは出発式会場の岡崎市役所をはじめ市内全域の公共施

設を中心に12会場を巡回した。各会場では、当時の写真や世界の様子等を年表にしたパネルや、市内で使用されているデザインマンホールのカラー蓋等を展示した。パネルキャラバンに引き続き、10月20日に岡崎市下水道事業100周年記念式、21日、22日にはマンホールサミット in 岡崎を開催した。

記念式では関係者275人が岡崎市民会館に集まり、これまでの100年を振り返るとともに、下水道が果たす役割や重要性をあらためて認識し、未来の世代も安心して下水道を利用できるよう、更なる事業推進の誓いを新たにしました。また、本市の下水道施設の新たな顔となるマンホール蓋のデザインが披露された。デザインは応募された404作品の中から有識者と市民投票により「いつまでも岡崎市民に愛されるデザイン」をテーマに決定した。更に、親善都市・ゆかりのまちとして提携している5都市とは、下水道事業100周年を記念し新たに制作したルネガールのデザインマンホール蓋を交換した。

マンホールサミットはマンホール蓋をはじめとした下水道の魅力を発信する全国的なイベントであり、令和5（2023）年の第11回は本市が中部地方で初開催となった。サミットでは第21弾となる本市100周年記念デザインのマンホールカードが先行配付され、2日間で約1万3,000人の来場者で賑わった。スタンプラリーやクイズ大会等子ども向けイベントも多数設け、本市下水道事業を広く市民に知っていただく機会を創出した盛大なイベントであった。



▲下水道事業100周年記念式
親善都市・ゆかりのまちデザインマンホール蓋交換式 J7-017



▲マンホールサミット リレートーク J7-018



▲マンホールサミット マンホール蓋展示（龍田公園） J7-019

1 計画の位置付けと計画期間

下水道は、衛生的な生活環境の維持や都市部の浸水対策等、市民の暮らしを守る重要な役割を果たしている。一方で、本市の下水道事業は、事業開始から100年が経つため施設の老朽化、将来の人口減少に伴う収入の減少、今後起こりうる南海トラフ地震や大雨による水害への対策等、近年多くの解決すべき課題に直面している。

そこで本市は、次の100年先を見据えて事業を計画的に経営するため、「第7次岡崎市総合計画」※1を上位計画として、厚生労働省「新水道ビジョン」※2、国土交通省「新下水道ビジョン」※3、愛知県「あいち下水道ビジョン2025」等の国や県の施策を踏まえ、上下水道事業のマスタープラン「岡崎市上下水道ビジョン」を策定した。計画期間は令和3（2021）年度～12（2030）年度の10年間で、これにより上下水道の大切な資産を次の世代へ引き継ぐべく、事業の推進を図っていくこととした。

※1：第7次岡崎市総合計画

令和3（2021）年度～32（2050）年度を目標年度として、目指す将来都市像を「一歩先の暮らしで三河を拓く 中枢・中核都市おかざき」と定め、その実現に向けて今後10年間の各分野における10の分野別指針「暮らしを支える都市づくり」を定めた計画。

※2：新水道ビジョン

「安全」「強靱」「持続」の3

つの観点から、50年後、100年後の水道の将来を見据え、水道の理想像を明示し、これを具現化するために取り組むべき方策を示したものの。

※3：新下水道ビジョン

下水道の究極の使命を「持続的発展が可能な社会の構築に貢献」することとし、4つの具体的使命

「循環型社会の構築に貢献」、「強靱な社会の構築に貢献」、「新たな価値の創造に貢献」、「国際社会に貢献」を示したものの。本ビジョンでは、これらの使命を達成するための長期的な未来像とそのための中期的な目標・施策を明確にしている。

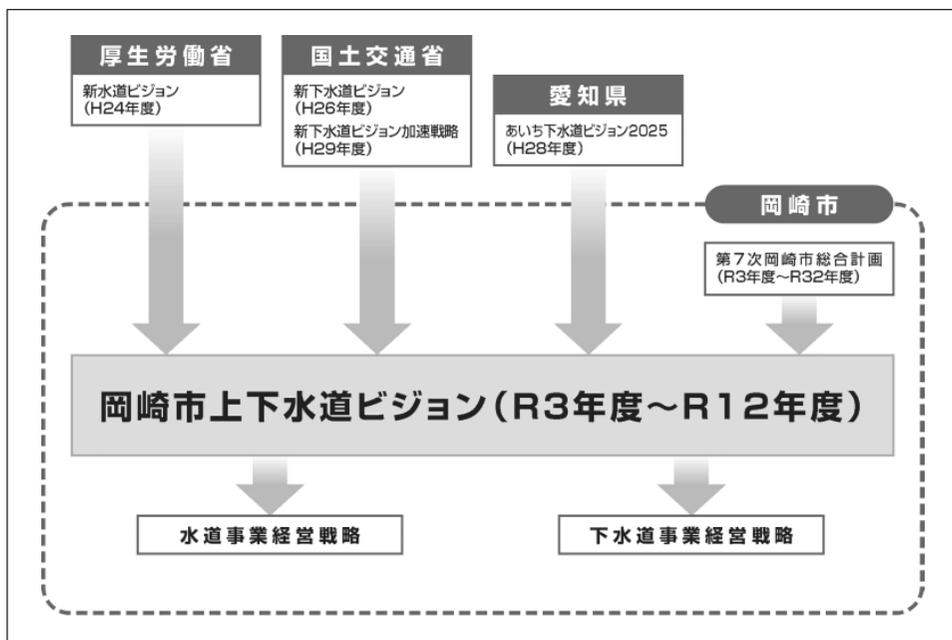


図7-4 岡崎市上下水道ビジョンの位置付け

2 基本理念

本市の上下水道は、事業開始以来100年近くに及ぶ長い年月の間、資産の老朽化や社会・都市の変化等により、普及率向上を目的とした建設の時代から更新・再構築の時代へと移り変わってきた。岡崎市上下水道ビジョンでは、今後も市民の暮らしを守り続けるため、安全・安心・安定に加え、強靱で持続的な新時代の上下水道を目指すべく、基本理念を「上下

水道新時代 暮らしを守る 次の100年へ～拡張から再構築へ大転換 未来へ引き継ぐライフラインの基盤強化を目指して～」とした。

3 ビジョンの体系

基本理念の実現に向けては、上下水道事業すべての取組の原動力として、ヒト、モノ、カネのそれぞれに対し、リスク、コスト、パフォーマンスのバランス

を最適化するアセットマネジメントを実施する。

アセットマネジメントでは、上下水道事業に約 160 あるすべての業務活動をヒト、モノ、カネに分類し、ロジックモデル（業務活動のような下位項目の成果が上位項目、更にその上位項目へと波及

する過程を表現する考え方）を用いて体系化する。そしてヒト、モノ、カネの相互関係を考慮しつつ、業務活動間の関連性や上位項目への貢献度等に基づいて業務活動の内容やそのやり方を最適化することで、基本理念の実現を支えるものとする。

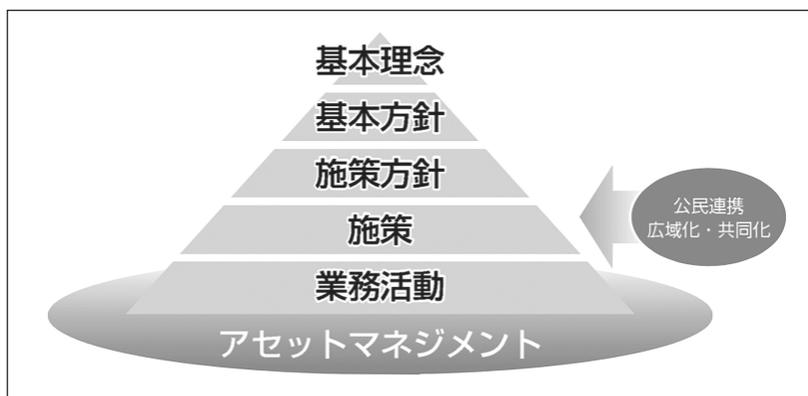


図7-5 岡崎市上下水道ビジョンの体系

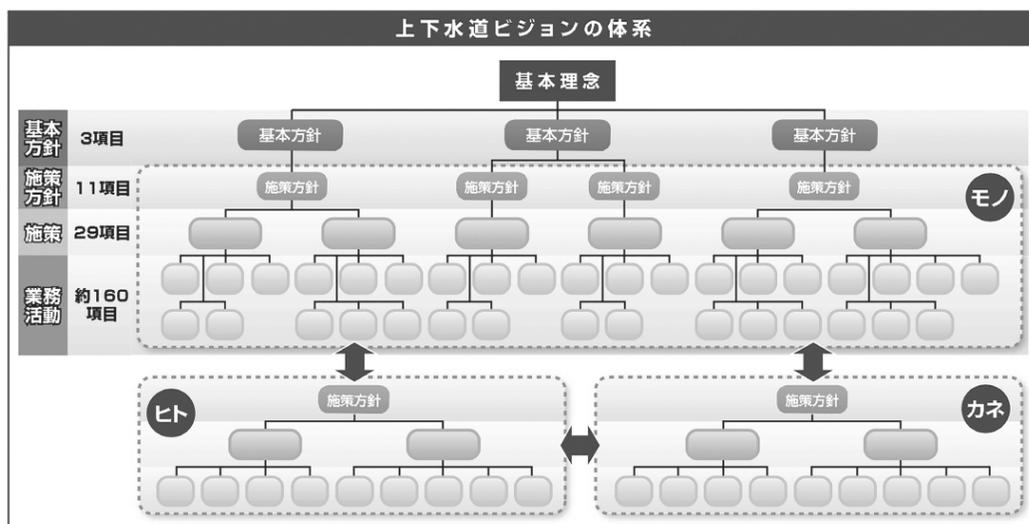


図7-6 サービスレベルフレームワーク（イメージ）

表7-5 岡崎市上下水道ビジョンの体系

基本理念	基本方針	施策方針
上下水道新時代 暮らしを守る 次の100年へ	暮らしを支える上下水道	安全・安心な水道水の供給
		下水道による環境の向上(下水道)
	強靱な上下水道	水道施設の再構築
		安定した水供給の確保
		地震対策の推進(下水道)
		浸水対策の推進(下水道)
		危機管理体制の構築(上下水道)
	持続的な事業運営	適切な資産管理(上下水道)
		企業価値の向上(上下水道)
		健全な事業経営(上下水道)
		組織の基盤強化(上下水道)

4 施策方針と施策

(1) 下水道による環境の向上

①現状

平成5(1993)年の矢作川流域下水道供用開始直前の下水道普及率は13.2%(当時の愛知県普及率41.4%)と低い状況にあったが、その後の整備により令和元(2019)年度末までには89.1%に向上し、全国平均79.7%、愛知県平均79.3%を上回った。その効果として、乙川等の水質改善が見られた。

また、平成28(2016)年に改定し

た岡崎市污水適正処理構想では合併処理浄化槽区域を拡大し、下水道の全体計画区域をそれまでの7,000haから6,310haにまで縮小した。

②施策方針

下水道の污水施設整備を進め、公衆衛生の向上と公共用水域の水質保全を図る。

③施策

- 1) 未普及地域における計画的かつ効果的な整備を進める。
- 2) 下水道への接続を啓発・指導し、未接続戸数の減少を図る。

表7-6 目標指標<下水道普及率>

現状(令和元(2019)年度)	令和7(2025)年度	令和12(2030)年度
89.1%	89.9%	90.4%
指標の算出方法		
下水道処理区域内人口/行政区域内人口×100(%)		
岡崎市污水適正処理構想に基づき、令和12(2030)年度の下水道普及率90.4%を目指す。		

(2) 地震対策の推進

①現状

緊急輸送道路に埋設されている管路や防災拠点・避難所からの排水ルート、

ポンプ場の耐震化や地盤の液状化対策としてのマンホールの浮上防止工事、一時避難場所等を対象とした災害対応トイレの設置を進めている。

② 施策方針

地震に強い下水道を目指し、地震対策を推進する。

③ 施策

- 1) 下水道管路の耐震化を進める。
- 2) ポンプ場の耐震化を進める。
- 3) 災害対応トイレの設置を進める。

表7-7 目標指標<管路の耐震化率>

現状(令和元(2019)年度)	令和7(2025)年度	令和12(2030)年度
23.7%	30.0%	36.0%
指標の算出方法		
耐震性を有する総管路延長/総管路延長×100(%)		
令和元(2019)年度の総管路延長1,806kmのうち、耐震性を有する管路延長は428kmである。 令和12(2030)年度には、見込まれる総管路延長1,970kmに対し、耐震性を有する管路延長700kmを目指す。		



▲地震発生時の液状化現象により浮上したマンホール J7-020



▲災害対応トイレと専用のマンホール蓋 J7-021

(3) 浸水対策の推進

① 現状

下水道施設の整備水準を上回る豪雨が増加し、都市部の雨水排水における下水道の役割が増大している。また、雨水ポンプ場や雨水幹線の整備、雨水貯留浸透能力の向上、ポンプ場の耐水化等の必要性が高まっている。

② 施策方針

岡崎市総合雨水対策計画に基づく下水道整備を計画的に行い、浸水対策を推進する。

③ 施策

- 1) 雨水ポンプ場や雨水幹線の整備を進める。
- 2) ポンプ場の耐水化について検討し、計画的に進める。
- 3) 河川や下水道等への雨水流出を抑制するため、民間の雨水貯留タンクや既存浄化槽を転用した雨水貯留施設の普及促進を図る。

表7-8 目標指標<重点地区整備割合>

現状(令和元(2019)年度)	令和7(2025)年度	令和12(2030)年度
6地区/16地区	7地区/16地区	9地区/16地区
指標の算出方法		
整備済みの重点地区数/16地区*		
針崎地区、福岡地区、六名地区の完成を目指す。 その他の地区についても早期の完成に向けて進捗を図る。		

※16地区：井田南、大平、鴨田南、久後崎、栄、島、中、中島、針崎、東明大寺、日名、福岡、南明大寺、六名、元能見、矢作（下線は整備済みの地区）

(4) 危機管理体制の構築

①現状

南海トラフ地震をはじめ、台風や豪雨、更にこれに伴う土砂災害や停電等、さまざまな災害への対応策の検討や、職員一人ひとりが災害時に迅速かつ適切に対応できるよう、職員の危機対応力を強化する必要がある。

②施策方針

災害、テロ及びその他の事故や感染症の流行のような非常事態が発生しても、

迅速かつ適切に対応することができる危機管理体制を構築する。

③施策

- 1) 研修や訓練等を定期的実施し、職員一人ひとりの危機対応力の強化を図るとともに、マニュアルなどの点検と見直しを実施する。
- 2) 備蓄や外部組織との連携体制構築により、災害時に必要となる資機材を確保し、または速やかに確保できる体制を構築する。

表7-9 目標指標<訓練改善実施率>

現状(令和元(2019)年度)	令和7(2025)年度	令和12(2030)年度
—	100%	100%
指標の算出方法		
改善数/訓練により改善が必要と判明した事項数×100(%)		
毎年度の訓練において判明した問題点について、速やかに改善を行い、対応力向上を図る。		

(5) 適切な資産管理

①現状

下水道管路の総延長1,806kmのうち、布設後法定耐用年数の50年を経過した管路が合流区域の市街地を中心に約90kmある。また、令和12(2030)年度には供用開始後50年を経過する管路が約280km(総延長比14%)を超え、将来

にわたりその増加ペースが加速する。更に、下水道施設の老朽化や、維持管理業務の増加を見据えた計画的な改築・更新を進める必要がある。

②施策方針

下水道の資産(管路、ポンプ場等)を適切に維持管理し、健全な施設機能を維持する。

③施策

1) 下水道施設全体の持続的な機能確保とライフサイクルコストの低減を考慮した、計画的な改築・更新を推進する。

2) 保守等適切な維持管理を行うことにより、下水道施設の事故や漏水を未然に防止する。

表7-10 目標指標<管路の老朽化率>

現状(令和元(2019)年度)	令和7(2025)年度	令和12(2030)年度
5%	7%	9%
指標の算出方法		
管路延長/総管路延長×100(%)		
令和12(2030)年度には、見込まれる総管路延長1,970kmに対し、法定耐用年数を超過している管路延長を190kmに抑える。		

(6) 企業価値の向上

①現状

社会情勢や生活スタイルの変化に伴うお客様ニーズを的確に把握し、サービス向上に努める必要がある。また、お客様や事業者に向けた情報公開、啓発イベントや出前講座等の実施により、下水道の普及啓発を継続的に行う必要がある。

動等により、公営企業としての価値の向上を図る。

③施策

1) お客様サービスの質の向上のため、業務の改善やサービスの多様化に努める。
2) 下水道事業への理解を促進するため、普及啓発活動や情報公開を積極的に実施する。

②施策方針

良好なサービスの提供や社会貢献活

表7-11 目標指標<啓発事業への参加者数>

現状(令和元(2019)年度)	令和7(2025)年度	令和12(2030)年度
3,080人	令和元(2019)年度以上	令和7(2025)年度以上
指標の算出方法		
啓発イベント、浄水場公開、出前講座等の参加者数		
上下水道事業への理解を深めていただくために、啓発事業を継続的に実施する。		

(7) 健全な事業経営

①現状

下水道事業の中長期的な経営の基本を示す岡崎市下水道事業経営戦略や岡崎市農業集落排水事業経営戦略を策定し、健全財政の維持に向けた経営を行っている。なお、農業集落排水事業においては、施設の老朽化に伴う維持管理費や更新費

の増加が見込まれる一方、人口減少に伴う使用料の減収が見込まれている。

②施策方針

持続的な下水道を支える安定的な事業経営を実施する。

③施策

1) 岡崎市下水道事業経営戦略及び農業集落排水事業経営戦略の定期

- 的な改定により、経営の健全化を図る。
- 2) 各事業における長期的な財政収支を踏まえた適正な利益の確保・資金管理と下水道使用料及び農業集落排水処理施設使用料の定期的な検証を行う。
 - 3) 農業集落排水事業を令和5(2023)年度末までに公営企業会計に移
 - 4) 下水道事業経営戦略及び農業集落排水事業経営戦略に基づき、各年度において適正な予算編成と財務管理を行う。
 - 5) 遊休地の有効活用等により収益の確保を図る。
 - 6) 公営企業として法令等に基づき行うべき事務を適正に実施する。

表7-12 目標指標<経費回収率>

現状(令和元(2019)年度)	令和7(2025)年度	令和12(2030)年度
104.1%	100%以上	100%以上
指標の算出方法		
下水道使用料収入/汚水処理費×100(%) ※汚水処理費は公費負担分を除く額		
100%以上の状況とは、汚水処理経費を下水道使用料で賄えている状況である。100%を上回る部分に当たる金額は、更新費用として留保される。100%をどの程度上回るようにしていくかは、経営戦略により管理する。		

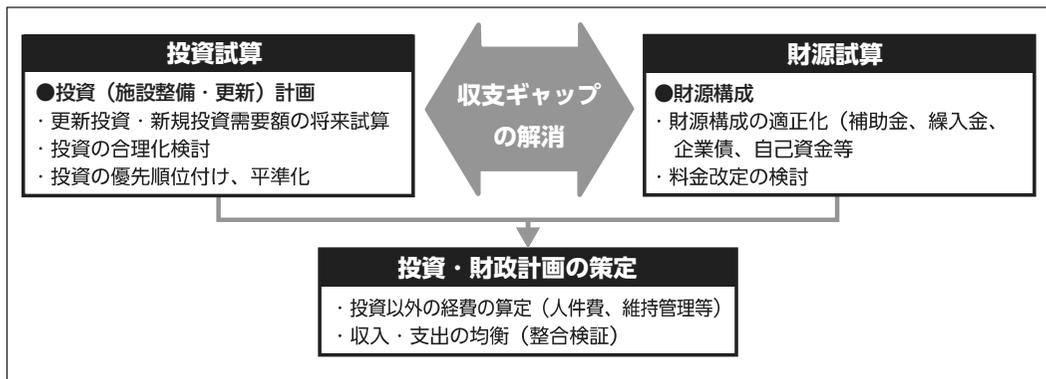


図7-7 経営戦略

(8) 組織の基盤強化

①現状

職員数が減少傾向にあり、下水道事業を支える人材の育成に力を入れるとともに、組織体制を強化する必要がある。

②施策方針

引き続き職員による直営体制を堅持するとともに、職員の能力を向上させ、さまざまな施策を推進するための組織基盤を強化する。

③施策

- 1) 計画的な局内研修、職場研修の実施により、知識や技術の習得を促進するとともに、外部研修や研究発表の機会を活用し、技術継承や人材育成の推進を図る。
- 2) 事業環境の変化に合わせた組織の整備を検討し、必要に応じて下水道事業の執行体制の強化を図る。
- 3) AI^{*1}やRPA^{*2}をはじめとする

先進技術の研究を行い、これらを活用した業務の汎用化・効率化を進める。

※1：AI

Artificial Intelligence の略称。人間の知的能力をコンピュータ上で実現する技術の総称で、蓄積データを用いた推論や判断、言語や文字の自動処理により、業務の効率化が期待される。

※2：RPA

Robotic Process Automation の略称。定型作業を自動化する技術で、事務の効率化や書類の電子化が期待される。

表7-13 目標指標<研究発表等の件数>

現状(令和元(2019)年度)	令和7(2025)年度	令和12(2030)年度
0件	10件	20件
指標の算出方法		
上下水道事業に関する研究発表等の件数(累計)		
上下水道に関する研究発表等で、毎年度各事業1件ずつ程度の発表を目指す。		



▲局内勉強会

J7-022

